

市役所の

小川さん、

哲学者になる

転身力

小川仁志

市役所の

小川さん、

哲学者になる

市役所の

小川さん、

[著者紹介] 小川 仁志 (おがわ ひとし)

哲学者、徳山工業高等専門学校准教授

1970年、京都市生まれ。京都大学法学部卒業、名古屋市立大学大学院博士後期課程修了。博士(人間文化)。伊藤忠商事、フリーター生活を経て、名古屋市役所で働きながら社会人大学院にて博士号を取得。第20回梶岡敏賞受賞、ヘーゲルに関する論文多数。

ブログ：哲学者の小川さん

市役所の小川さん、哲学者になる
転身力

二〇〇八年十一月十七日 第一刷発行

著 者 小川仁志
おがわ ひとし

発行者 下村のぶ子

発行所 株式会社 海竜社

東京都中央区築地二の十一の二十六 〒一〇四—〇〇四五

電話 (〇三)三五四二—九六七—(代表)

FAX (〇三)三五四一—五四八四

郵便振替口座 〇〇—一〇—九—四四八八六

<http://www.kaiyusha.co.jp>

電算写植 株式会社 盈進社

印刷・製本 半七写真印刷工業株式会社

落丁本・乱丁本はお取り替えます

©2008, Hitoshi Ogawa, Printed in Japan

ISBN978-4-7593-1045-0

市役所の小川さん、
哲学者になる
転身力

はじめに

私たちは無限の選択肢の中から、 自由に選りながら生きている

映画『ロボコン』（二〇〇三年公開）をご存じだろうか。長澤まさみの初主演作だ。あの映画の撮影が行われた徳山湾を望む校舎の真新しい研究室で、私はこの原稿を書いている。あつという間に過ぎ去った、しかし濃密な五年間を思い返しながら……。

ごく普通の市役所職員が、ある日思い立って社会人大学院に入学した。そしてゼロから始めて、働きながらわずか四年で、准教授のポストを得て哲学者になった。本書は、そんな一風変わった転職物語の紹介である。と同時に、誰でも働きながら研究者になれるという事実と、その秘訣を公開するものでもある。

もちろん、そこまで考えていなくとも、とにかく人生を変えたいと悶々とした日々を送っているすべての皆さんに、私の体験を通じて、できるだけヒントになるようなことを伝えていきたいと思っている。

「チエンジ」はいつの時代も人々を魅了するキーワードである。本書を書いている間、ちようどキムタクこと木村拓哉主演の『CHANG』というドラマをやっていた。小学校の先生が総理大臣になるのだ。アメリカの大統領選挙でも、オバマに限らず「チエンジ」がスローガンになることが多い。終身雇用神話が崩壊し、雇用の流動化が進む今、世の中はまさに大転身時代を迎えているといっても過言ではない。やる気と努力さえあれば、誰でもなりたい自分に転身することができるのである。

何を隠そう、私はこれまでの人生で（といってもまだ三十八歳なのだが）、商社マン、市役所職員、哲学者と、まったく異なる三種類の仕事をやってきた。しかも官僚がキャリア制度で異業種に出向したり、定年になったサラリーマンが経験を生かして第二の新しい職場に再就職するのとは異なり、その都度自分で勉強して、なりたい自分に転身してきたのだ。

友人からは一人で「産官学」を渡り歩いたなどとからかわれるが、まったくそのとおりである。本書を「人生を変えたい人のためのガイドブック」のつもりで書いたのは、そんな私の経験を伝えたかったからである。本文中では転身のために必要と思われる様々な「力」、いわば「転身力」をふんだんに紹介した。

とくに市役所職員から哲学者への転身は、仮面ライダー並みの大変身だといえる。

今、『高学歴ワーキングプア』(水月昭道著／光文社)という本がベストセラーになっている事実にも象徴されているように、博士号を取っても、一流大学の大学院で研究をしていても、研究機関への正規採用がないと叫ばれる時代である。

にもかかわらず、地方の一社会人大学院生が、在学途中で准教授に採用されるということ自体ちよつとしたニュースである。ましてや仕事とは何の関係もない「哲学」などといった分野で……。仕事の延長で大学の先生になる人は最近増えている。市役所出身者だって、地方自治論とか公共政策論を教える研究者ならそこそこいる。しかし哲学者というのは、誰が聞いても変わった転職である。

ところで、今研究者と書いたが、実は私の勤務先はいわゆる「高専」である。一応、この点について最初に説明しておく、「高専」とは高等専門学校で、全国に六十四校存在する。専門学校? と思われる方もいるかもしれないが、公立の六校と私立の三校を除き、残りの五十五校はもとは国立で、現在は独立行政法人国立高等専門学校機構に属する高等教育機関である。高校と短大あるいは大学の一貫教育だと思ってもらえばよい。

したがって、大学と同じく学士(正式には専攻科という六年目、七年目のコースに進めば学士、そうでない場合は準学士)も取ることが可能だし、先生も研究者で、肩書は「教授」

「准教授」「講師」「助教」「助手」となる。そうしたことから、高専の場合も教員としての採用、扱い、仕事とも一応大学の先生と同じという前提で話を先に進めていきたい。実際、英語の表記では“college”なのだ。

本書は、そうした状況の中で「生涯研究」というコンセプトに惹かれ、それを熱演するうちに本当に研究者になってしまった、一人の社会人大学院生の奮闘記であるともいえる。生涯学習でもなく、従来の本格的な「研究」とも微妙に異なる学びのあり方を、ぜひご紹介したい。

巷には、司法試験などの大型資格の取得や、同じ大学院でもMBA（経営学修士）を取って人生を変えろという選択については、豊富な情報が溢れている。それに比して、MBA以外のとりわけ文系の社会人大学院をどう生かすかということについては、あまりにも情報が少ない。その意味で本書が、人生を変えたい人にとって新たな選択肢を提示するものであることはたしかだろう。

さて、人生を変えるのは決して難しいことではない。フランス実存主義の哲学者サルトルは、「実存は本質に先立つ」と主張した。私たちは、次に何をするべきか、すべて無限の選択肢の中から、常に自由に選ぶことによって生きているという意味だ。書店で目の前にある本を手取るのも、隣にいる見知らぬ人に話しかけるのも、求人広

告に応募するのも、すべてあなたの自由である。

例えば、人生を変えるための本を手にとったとする。実はその瞬間、あなたの人生はもうすでに変わり始めているのである。本書があなたの人生を変える大きな一歩になることを願ってやまない……。

目次

はじめに 私たちは無限の選択肢の中から、

自由を選びながら生きている 1

序章 転身へと心を突き動かすもの

なぜ学び直しを決意したか 16

「生涯研究」という生き方がある／「公」なるものに目覚めて／時代が求めるヘーゲル、私にとつてのヘーゲル

気づきは少しずつ与えられていた 25

勉強とは無縁だった学生時代／台湾の「政治の季節」と天安門体験——商社

マン時代／仕事の中で学んだ「公」と「私」のあり方——公務員時代

1章 それは挫折のドン底生活から始まった

地獄のフリーター生活

36

司法試験を目指し、初めは悠々自適だったが……／フリーター四年目。三十歳を目前についに壊れる／「自由の重さ」とフリーターのタイプ

甦った「なにくそばあちゃん」の教え

45

このままでは終われない／「なにくそ」は「転身力」のカンフル剤

挫折を乗り越えるへ小川式 七つの方法

49

①ハードルを下げてみる／②ファイバルの活躍を調べる／③本屋めぐり／④自分の成功物語を書く／⑤親に感謝する／⑥死を想定する／⑦星を見る

2章 夢を実現するための転身と、生活を両立させる方法

転身を後悔しないための心得

60

転職が自己実現のプロセスになるように／転職先ではいつも“一年生”だが

〈小川式〉公務員試験、にわか必勝法

私が公務員を選んだわけ／公務員試験の段階的三つのポイント

66

3章 生きがい発見！「市役所の小川さん」

お役所の仕事と市民パワー

キーワードは「ワーク・ライフ・バランス」／都市計画課でまちづくり／区

74

役所の総務課庶務係は何でもやる部署

やっぱり事件は現場で起きていた

役所仕事はチームワークがカギ／防災の仕事を通じて学んだ「自助・共助・

81

公助」の連携

公務員と「公共哲学」の関係

公務員とはどんな立場か／私が「公共哲学」を研究テーマに選んだ理由

87

4章 「働きながら」 大学院で研究するという選択

なぜ学び直しは効果が上がるのか、楽しいのか……………96

何でも二度目は上手にできる／社会で培った〈小川式〉「5力」ごちからが役に立つ

／学ぶモチベーションが持続する

院生には二派がある……………105

社会人大学院とは何か／本格派・カルセン派・生涯研究派

5章 社会人大学院受験のための対策

情報を活用してターゲットを絞る……………118

実態・条件・専門科目・教授陣を調べる／研究計画書の準備をする

即席で「専門レベル」の知識を身につける……………122

学部卒レベルの標準的事項をマスターする／入門書で全体構造をつかむ

直前の戦術アドバイス 127

論文の書き方／面接の要点

へ小川式へ外国語マスター法——中国語・英語・ドイツ語 131

最初は中国語、気がつけばマルチリンガル？／お金をかけずに英語力を維持する方法／リズムと発音、中国語は関西人向き？／三人のドイツ人に師事／ドイツ語の翻訳の仕事が回ってきた！

6章 仕事と大学院、二足のわらじの履き方

仕事と勉強、二足のわらじには相乗効果がある！ 146

仕事モードと勉強モードのいい関係／仕事の段取りがうまくなる／仕事・

学業・家庭の三立法／就職後の博士論文、学位記番号はラッキーセブン

へ小川式へ十五分間集中勉強法 155

受験勉強並みの研究生活／十五分間集中勉強法の勧め／何にでも顔と口を

出す／リメンバー京都

社会人大学院生の「もう一度キャンパス」	164
---------------------	-----

平均年齢五十歳のゼミ／教養は踊る／授業はバトルロイヤル

大学院生活の醍醐味？ 学会活動は営業最前線	174
-----------------------	-----

学会で営業——最先端の研究に触れる／初めての学会発表——発表の場を

得る／学会活動、天王山——就職のための社交の場

7章 プロの研究者を目指す人のへ小川式＜十一＞のステップ

☆運を呼び込むために	186
------------	-----

☆ステップ1 まず両立できる仕事を確保する	187
-----------------------	-----

☆ステップ2 次に大学院に行く	191
-----------------	-----

☆ステップ3 学ぶ内容を吟味する	194
------------------	-----

☆ステップ4 学校を選ぶ	198
--------------	-----

☆ステップ5 論文を発表する	203
----------------	-----

☆ステップ6 学会発表をする	207
----------------	-----

☆ステップ 7	できれば賞を狙う	210
☆ステップ 8	教育歴になりうる活動をする	216
☆ステップ 9	公募に応募する	219
☆ステップ 10	自分をプロデュースする	228
☆ステップ 11	「強い気持ち」をもち続ける	231

8章 「てつがくあたま哲学頭」で生活も仕事もうまくいく

「哲学頭」をもてば、ものごとを深く楽しめる	234
-----------------------	-----

ところで、哲学って何だ？／哲学の「3力」——想像力・整理力・普遍化力
 ／いつでもどこでも「コンビニ哲学」／哲学頭は人生を豊かにする、世界を
 広げる

哲学は現代にこそ必要な学問だ	244
----------------	-----

難しい言葉はもういらない／ビジネスにも使える哲学フオーミュラ／德育
 は社会人に必要な知識・技能である

ヘーゲル哲学とはどんなものか……………	256
「使えるヘーゲル」とは？／これが噂の弁証法だ	
哲学研究者か、在野の哲学者か……………	263
本物の哲学者からのメッセージ／高専での教育を選んだわけ	
「哲学カフェ」は楽しく思考力を鍛える場……………	271
語り始めた子どもたち／ある日の「カフェ」にて	
へおわりに／私が目指すのはこんな哲学者……………	279